

### イロイロ州ビンガワン町（町役場職員・マーヴィンさんからの情報 4月3日午前）

幸いにも、4月3日時点で陽性が確認された人はいません。80名の健康観察対象者がいましたが、2週間の間に感染を疑う症状はあられませんでした。1名はウイルス検査をしましたが、陰性でした。

許可証（quarantine pass）の運用は自治体によって異なりますが、ビンガワン町ではそれを運用し、住民の行動を制限しています。小さく、財政的にも弱い町ですから、感染症の蔓延は絶対に防がなくてはなりません。

町は緊急対応センターを設置し、近隣の町との境に複数のチェックポイントを設けました。食糧の配給をしています。大規模輸送を停止し、市場を開場する日を限定し、夜間の外出を禁止しています。一方で生活必需品の買い出しの移動手段がない人のために、計画的に交通手段を提供しています。ちなみに、酒類の販売も禁止しています。

医療・保健従事者や、この緊急対応策に第一線で関わる人をのぞいて、町行政職員は在宅勤務を行っています。軍、警察、消防、村警察、ボランティアグループなどは協力して第一線で働く人たちに食糧や生活必需品を届けたりしていますが、個人防護具などは決定的に不足しています。

私自身についていえば、この数週間、目の回る忙しさです。町は災害基金を使って、これらの対策を行っているのですが、お金は全然足りません。政府が緊急支援策を打ち出すことを期待します。特に困窮している世帯への支援は急務です。この状況はしばらく続くでしょう。町はさらに集中的な対策を講じるでしょう。

### ダバオ市（ダバオ医科大学プライマリヘルス研修所（DMSF-IPHC）【NGO】）事務局長・ジョバスさんからの情報 4月3日午後）

ダバオ市ではすでに50名以上の感染者が出ています。市は封鎖され（4月19日までの予定）、地域ごとにも隔離が行われています。そのためDMSF-IPHCの現場スタッフは活動地域から引き上げ、在宅勤務を行っています。封鎖が始まる前に職員全員が事務所で会し、在宅でできる仕事を確認し、封鎖がとけた翌日に出勤してその進捗について報告し合うことを決めました。

DMSF-IPHCが運営する宿泊所に滞在するダバオ医科大学生（多くはインド人）、約100名に対しては、2000ペソと食糧の支給を行いました。

事務職員は仕事がなくなったため、雇用規程に基づいて給料が払われません。しかし今は非常時です。少しでも彼らの生活の支えになるよう、米を支給することにしました。

活動地域との通信は確保していますが、これまでのところ地域からの連絡や報告はありません。